

## SOE と大学生の協働企画

# 「ヤゴの救出大作戦！ ～生き物と環境のつながりを考える～」

### を板橋区立緑小学校で実施

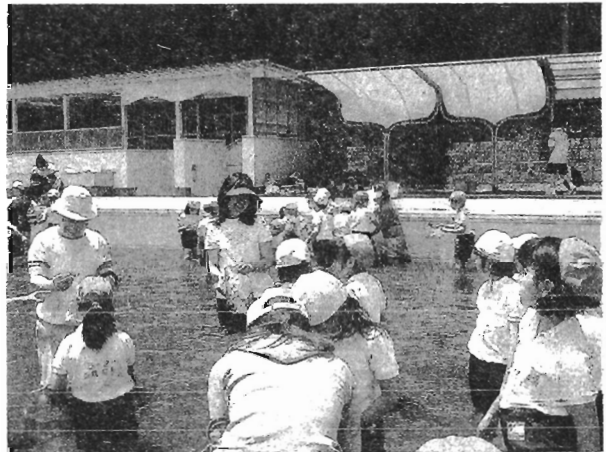
昨年9月から、SOE（センスオブアース）と、さまざまな環境保護活動に関わっている大学生の皆さんと一緒に  
なって創ってきた『環境教育プログラム』が、今年度、板橋区内の小学校で採用されました。

すでに『ヤゴ救出』を区内小学校で実践されてきた板橋エコポリスセンターのスタッフの方々や専門家の方から、  
多くのアドバイスとご協力をいただき、実現することができました。

以下は、板橋区緑小学校での出前授業に、自らスタッフとしても参加した東京学芸大学の酒井玲奈さんのレポ  
ートです。

SOE と環境教育に関心のある大学生によって組織  
されたチームで、5月28日、板橋区立緑小学校にて  
環境教育の出前授業を行いました。今回実施したプ  
ログラムは「ヤゴの救出大作戦！～生き物と環境の  
つながりを考える～」。小学校のプールに生息するヤ  
ゴを採集・飼育し、生命の重みや周囲の環境とのつ  
ながりを感じてもらおうという企画です。

当日はスタッフとして社会人4名・学生9名の計  
13名が参加し、3学年の生徒約90名を対象に体当  
たりの授業を実施しました。以下、簡単に当日の様  
子をレポートしたいと思います。



「よかったねー。ヤゴにさわってー。こわくないよー。」  
SOE 柳さん、早稲田大藤井さんのこの笑顔

### 腹話術や替え歌で 導入

先生の誘導に従い子どもたちがプールサイドに整列すると、さっそく授業スタートです。寺田先生の特  
技「腹話術」で始まった授業に、子どもたちは興味津々。スタッフの元気な自己紹介や替え歌を使ったヤ  
ゴの捕り方説明など、「楽しく学ぶ」ための工夫がたっぷり  
詰め込まれた導入が皆の気持ちをどん  
どん高めていきます。



### いよいよプールへ

ひと通り説明が終わると、いよいよプールの中に入ります。  
ハンガーとくずとりネットのできた手作りの網を手に、恐  
る恐るプールへ入る子どもたち。最初は「水が汚くて気持

「ヤゴは何を食べて生きているのかな。ヤゴは誰に食べられている  
のかな。」早稲田大3年杉山さんの食物連鎖の話です。

## ヤゴの救出大作戦！～生き物と環境のつながりを考える～

「暑い」と言っている子もいましたが、前日までの暑さのおかげで水は温かく、入って見ると意外と気持ち良かったようです。真剣な顔でプールの水をすくい始めました。

イトミミズやアカムシ、カゲロウの幼虫を指して「これは何？」「ヤゴってどんな形しているの？」「目で見える大きさなの？」とスタッフを質問攻めにしていましたが、やがて「あ、これヤゴでしょ！」と自慢げに差し出した網の中には、小さなアカネ系のヤゴが入っていました。これにはスタッフのほうびびっくり。というのも、事前の調査でヤゴは見つからず、今回は捕獲できないだろうと考えて準備していたのです。

### えっ！アキアカネのヤゴがこんなにいるの？

プールに入っていたのは20分程度でしたが、それでも最終的には300匹を超える大収穫となりました。ヤゴが怖くて「取ってー」と甘える子、余裕でつまみとってバケツへ移す子など、ヤゴへの反応は様々。最初は「虫が嫌い」と言っていたのに、ヤゴを見つけてからはちゃっかり触って自慢げに見せびらかしていた、という子もいたようです。

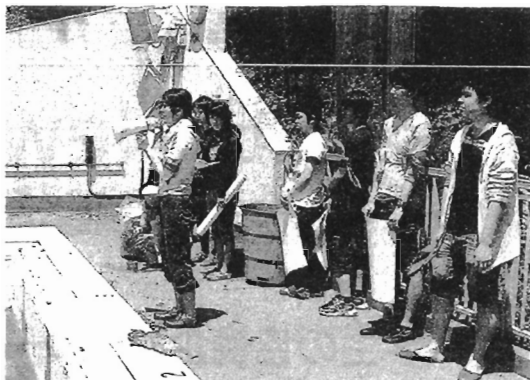
今回捕獲したヤゴは全てアカネ系で、ビオトープのものとは比べるとかなり小型でした。なぜこうした傾向が見られたのかはスタッフにもわからず、子どもたちには調べ学習のテーマとして投げかけることに。小さな共同研究者として、これからも共に学んでいけたらと思います。(アキアカネは、卵の期間が以外に長く、幼虫になるのが遅いようですが、もう少し生態を調べていきます。) また、若木小学校のプールや先生方のご好意で、ギンヤンマのヤゴを50匹ほど救出でき、緑小学校3年生に分けることができ感謝しました。

### ヤゴの大きな模型を見ながら食物連鎖・育て方を学ぶ

捕獲作業が終わり子どもたちもヤゴの実物に触れたところで、今度はヤゴの種類と生態系の解説です。ここでは今年の初めから製作してきたヤゴの模型と模造紙に書いた図を利用しました。ヤゴを取り囲む様々な生物とのつながり、そして人の生活と生物とのつながりを感じて欲しいとの思いから、食物連鎖の様子を写真入りで紹介。子どもたちも、さっきまで見ていたアカムシがヤゴの餌であることを知り、納得していたようです。

また、余談ですが、視覚的に楽しめる教材作りは授業を良いものにするだけでなく、製作段階でスタッフ同士の親睦を深めるのにも大いに役立ちました。

時間が無い中で学生と社会人がひとつの作品を作り上げるのはとても意味のあることだったと実感しています。



「さあ、ヤゴを飼う時の3つの大切なこと、お話ししますよ。」説明するのは学芸大の酒井さん



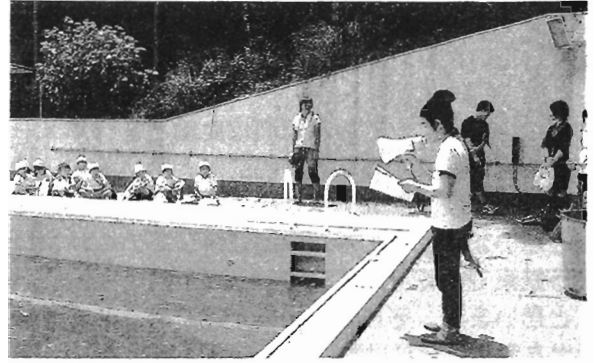
「やったねー！たくさんとれたよー！」  
法政大の佐藤さんの笑顔。



助けたヤゴを真剣に観察。  
いつの間にかやごの兄弟、3年生

### 命の授業は大成功—学生たちの手ごたえ

子どもたちがヤゴに触れ、普段は意識しないようなところにいる命を感じられたという点で、この授業は大成功だったと言えます。そして、それ以上に、我々スタッフもこのような新しい形の授業を実施し、また子どもの反応を直接受け止めることができたことで、大きく成長できたと感じています。次の実施校や秋以降の新企画に向けて、この仲間たちとさらに前進していきたいと思いました。



「助けたヤゴの合計がわかりました。全部で338匹です。」と法政大の浅井さん。ワーという3年生の歓声がサンシティの森に響きました。

## センスオブアースによる 第4回 沖縄・備瀬～ちゅら海 エコツアー ～参加者募集のご案内～



センスオブアースは、創立前に、第1回沖縄エコツアーを実施し、今回で4回目になりました。昨年は、現地でサンゴの成長観察場所を設置して来ましたので、今年はサンゴが温暖化の中でどのように「成長」しているか、いないのかを確かめに行く旅でもあります。



第3回沖縄エコツアー、那由登巻出形式

### 昨年の参加学生のメッセージより

《大学生 N・A》3度目のエコツアー。何回もこのツアーに参加し、沖縄に戻ってくるのは、この海があるからなんだなあ・・・と実感。久しぶりの備瀬の海で見た夕焼けは、ハッと息を呑むほど美しかった。去年もおととしも見た夕焼けだけけれども、いつも新鮮でいつも違って見えるのは私の心が変化しているのもあるんだろうな。あまりきちんと話したことがない子、初めて知り合った子ばかりの今回のエコツアー、たくさん良いところを見つけるのが最初の課題かな。  
新たな出会いの夏、スタート。



猛暑の中、海辺のごみをこまめに集めました!!

《大学生 O・T》今日、カヌーに乗っ、魅力を再認識。水面をすべるように進んで、風や光を感じることができて、とても気持ち良かったです。まるで、木の葉の気分でした。アダンの実は、浮かびながら海を漂って漂着し、子孫を残していくと言う話を聞き、自然に身をまかせているし、そのための能力を備えているなと思いました。私たちはどうでしょうか。自然に身を任せるといふより、危機感を持つたりしています。たとえば、温暖化などは、その原因は人間という私たち自身です。風葬も見ましたが、わたしたちも本来、自然に身をゆだねて自然に還っていく存在なのだと思います。

それから、戦争についてですが、今、私たちが踏んでいる日本という土地の歴史の重さを感じました。先祖の方々が、つくってきた文化や命の尊さを感じながら踏みしめる沖縄の地は温かさと、何かスゴイ

引力があるように感じてドキドキしました。先人たちの生き方から、私たちが学ぶことは多く、将来、私たちが生きた時代が恥とにならないようにしたいと思いました。

サンゴについては、とても不思議な生物と言うイメージがありました。月夜の晩に産卵するなど神秘的だと思います。地球や宇宙の全部を感じられる繊細な動物だからこそ、地球の危機に敏感に反応するのだと思います。私たちが今回観察していくサンゴが後退していくという結果でなく、成長している！と言ううれしい結果が続けばいいなと思います。そして、結果だけでなくそのために、何をしたらよいかを考え続けなければならないと思いました。



オバアといっしょに郷土料理づくり



昨年のツアーから始まったサンゴの観測もエコツアーの目的のひとつ

### 《ツアー概要》

第4回沖縄・備瀬～ちゅら海 エコツアー

実施日 2007年 9月 6日(木)～9日(日) 全行程 3泊4日

行き先 沖縄県国頭村本部町 字備瀬後備浜原674-1

宿泊地 ホテルゆがふいん備瀬

沖縄県国頭郡本部町字備瀬 11

TEL 098-048-4388

対象者 環境改善活動に参加(サンゴの観察・ごみひろいなど)しながら、  
現地の方と心から交流できる方

ツアーの目的

- 現地の人々と文化・沖縄料理をつくる・行事を通してふれあう。
- 現地の海の様子を観察し、特にサンゴの成長状況を記録する。
- 現地の海辺のごみひろい
- 海辺のキャンプファイヤーで参加者の熱い交流。
- マリンスポーツを楽しむ。カヌー・シュノーケリング(すぐできる)・遊泳
- 美ら水族館～ジンベエザメで有名な一見学(現地から歩いていけるところにある)

費用 今の時点で、7万円弱の予定(全食事10回つき、レンタカーつき)

申し込み先 下記にFAXしてください。

締め切り 7月2日(月)まで。ただし15名先着順で、締め切ります。



センスオブアースあて FAX 03-3960-6053 寺田 茂

沖縄・備瀬ちゅら海エコツアーに申し込みます。

申し込み日時 月 日

住所

年代 お名前

連絡先(電話) E-メール

FAX

発行 特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053  
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp